

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570800195
法人名	医療法人 隆徳会
事業所名	グループホームあじさい
所在地	宮崎県西都市聖陵町-6 (電話) 0983-41-1377

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年6月30日

【情報提供票より】(20年 5月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 5月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(5月 31日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79, 87 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人隆徳会 鶴田病院、 鶴田クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、人としての尊厳が守られ、近隣地域との交流の中で自由に生活できることを理念に掲げ、職員は、自分の親や自分達自身も入りたくなるようなホームにしようと理念の実践に努めている。日課の朝の散歩では、日々異なる希望のコースを出かけ、近隣民家や地域、元利用者家族との交流を楽しんでいる。災害対策として毎月全職員参加の非難訓練を実施し、地域の協力をさらに得ようと努力している。また医療の救急時には、母体法人系列の医療機関等の協力が即得られる体制である。民家型の家庭的なホームで、利用者は穏やかな表情をされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	相談・苦情窓口の提示については、口頭で第三者や関係機関の説明が加えられるようになったが、重要事項説明書に明記してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれが自己評価して全員で共有し、外部評価をサービスの質向上の検討機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政の担当者、包括支援センター職員、自治会の代表者、民生委員、家族代表者など幅広い立場のメンバーが参加し、隔月毎定期的に開催している。今後は、家族から積極的な意見等出してもらえようような取り組みをすすめたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や折々に、意見や相談苦情等は受けとめられ、全職員で共有し、サービスの向上へつなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の住所地の敬老会に参加したり、小学校や保育所、またボランティアなどの訪問もある。近隣民家から桃ができたからと差し入れがあったり、ホームでできたものを民家に届けたり、元利用者だった家族等の訪問も続いている。防災では近隣、関係機関との連携も拡大されつつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の親や、自分達自身が利用者として入りたい、当たり前前かが当たり前として生活できる場所、地域との関わりも込められた理念は、職員全員で作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践のために、月1回共有のミーティングを行い、問題時には即協議し解決に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は住所地の敬老会に参加したり、小学校や保育所、またボランティアなどの訪問もある。近隣民家から桃ができたなどの差し入れや、またホームでできたものを民家に届けたり、さらに元利用者家族との交流も続いている。		地域との関わりを広げるために、食材購入に利用者をスーパーに同伴される機会を増やすなど、更なる取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれが自己評価を行い、外部評価を日常のサービスの質向上のために、全員での検討機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎、定期的で開催している。家族からの意見を十分聞き出せているだろうか、と振り返りながらサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外でも随時、意見交換など行い連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や月1回のホーム便りで、利用者の様子や金銭管理状況、職員の異動等も含めて家族等に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や電話等で職員から進んで声かけがなされている。家族との機会を増やすために、利用料の支払いには直接ホームへ持参してもらったり、季節毎に衣類の入れ替えに来訪し面会の機会としてもらうよう工夫している。	○	毎週福祉関係者との話し合いが行われている。この機会を家族等へ第三者窓口として利用するなど工夫して、意見や苦情を出しやすい機会を増やしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者を尊重した異動となるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、段階別に参加できるよう配慮されている。受講した職員は、復命書で報告し、毎朝のミーティングで他職員に伝達共有しており、日々のサービス提供の中に受講の成果を実感している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業グループの中央ブロックでの交流が進んでおり、業務研究にも参加し、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームとしてはショートステイを経てのホーム利用開始を望んでいるが、様々な事情でいきなり利用となる場合もある。利用者の不穏状態を受けとめるために、専任の職員を配置し、家族にも頻繁な面会を働きかけるなど、利用者が落ち着かれるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、利用者から調理法や歌詞を教えてもらうなど、支え合う関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外食したいなど利用者や家族の意向を把握し支援している。ケアマネジメントをセンター方式への変更を模索中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を汲み取るように努め、来訪時の家族と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて家族にも説明し、必要な対応を即行っている。3か月毎には利用者全ての見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて支援体制があり、通院支援など行っている。地域の方から縁者の相談を受け、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が、かかりつけ医師に受診できるよう、家族支援を行い、必要時には情報提供や同行をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針をつくり、全職員で共有し、家族等にも説明、同意を得ている。医療機関との連携体制も出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	いつでもどこでも恥ずかしい思いをさせないよう配慮されている。ホーム内にある利用者の氏名や写真等の掲示は、家族の了解が得られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押し付けなどはせず、利用者本位である。朝の散歩を日課とされる利用者の満足となるよう、日々異なる希望のコースを同行し、安全見守りの配慮がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も入れた献立で、時には利用者も調理している。利用者と職員皆が、同じ食卓を囲み、同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴である。散歩や戸外活動の後のシャワーは自由に使える。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム利用以前の生活歴を活かして、庭先でのパターゴルフなど、その人らしい楽しみとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩(約60分)を日課とするなど日常的に外出している。また家族の支援を得ながら、外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をせず、自由に庭に出ることができる。利用者や家族の同意を得て、安全の為に道路に面した入り口格子に鍵をかけている。	○	家族や地域の方など訪問者が訪問しやすい環境づくりのためにも鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や行政の協力を得ながら避難訓練を年2回行っている。また毎月、夜間災害対応のために全職員参加しての訓練に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量等、個々に応じて把握されている。散歩後も自由に水分が取れるように支援している。体重チェックは毎月1回なされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口が畳である。隅々まで掃除が行き届いており、居間および共用空間は明るい。生け花がさりげなく飾られ、季節感を出すよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの使い慣れたものが持ち込まれている。位牌が祭られている居室もあり、その人らしく過ごせるように工夫されている。		